

## 大豆害虫ウコンメイガの発生地域と防除要否の判断時期

ウコンメイガは本県では平成17年に多発したため、発生状況や既知見を平成18年病害虫防除技術情報として提供したがその後の調査により以下のことが明らかになった。

岩手県内でのウコンメイガの発生は全県的に認められ、被害確認市町村は増加している。

ウコンメイガは本県では7月中旬から大豆ほ場に侵入・産卵し、8月上旬以降大豆葉の被害が顕著になる。

7月第6半旬では葉巻数が少ないため、防除要否を判断する時期は、当面8月上旬とするのが適当である。

### 1 発生状況と生態

- (1) ウコンメイガ幼虫による葉巻被害は平成17年に岩手県内で広く発生し、花巻市、北上市で被害多発ほ場が認められた。その後も年により発生量に差はあるものの毎年発生が認められており、発生確認市町村数は増加している(図1)。多発ほ場は県央・県南部に限られる。
- (2) ウコンメイガはイラクサ科植物(アカソ、カラムシ等)で幼虫越冬する。岩手県内でもアカソで越冬することが確認されたが、大豆ほ場に侵入・産卵して加害を及ぼすウコンメイガの発生源かどうかは不明である。

### 2 成虫飛来数と葉巻被害の推移

- (1) 岩手県ではウコンメイガ成虫は7月中旬から大豆ほ場に侵入を開始する。これは富山県より5～10日程度遅い(表1)。
- (2) 成虫数はその後急激に増加したあと8月末まで少数の侵入が続く。成虫数ピークは7月下旬と考えられる。(図2)。
- (3) 被害を与えるウコンメイガ幼虫は7月下旬に侵入した成虫から産卵されたもので、5日間の卵期間を経て孵化し、大豆葉への加害を開始して8月上旬以降葉巻数を急増させる(図3)。

### 3 防除要否の判断時期

- (1) 平成18年の病害虫防除技術情報では、富山県の要防除水準(参考資料1)と調査時期を参考として7月下旬～8月上旬の葉巻数6個/本を目安としたが、本県では7月下旬の葉巻数は3年を通して少ないこと(図3)、7月第6半旬に葉巻がほとんど見られないほ場においても8月下旬調査で多発生が認められていることから(表2)、7月第6半旬の葉巻数から被害程度を推定することは困難と考えられる。
- (2) 岩手県におけるウコンメイガの要防除水準は今後農業研究センターで検討することとしているが、葉巻数の増加の推移から見て当面8月上旬の葉巻数によるのが適当と思われる。
- (3) 要防除水準の葉巻数はこれまでどおり6個/本を目安とし、この数以上となったらただちに防除を行う(参考資料2)。

参考資料1 平成16年度試験研究成果(富山県)ダイズにおけるウコンメイガの防除基準

参考資料2 平成18年度病害虫防除技術情報 No.18-3

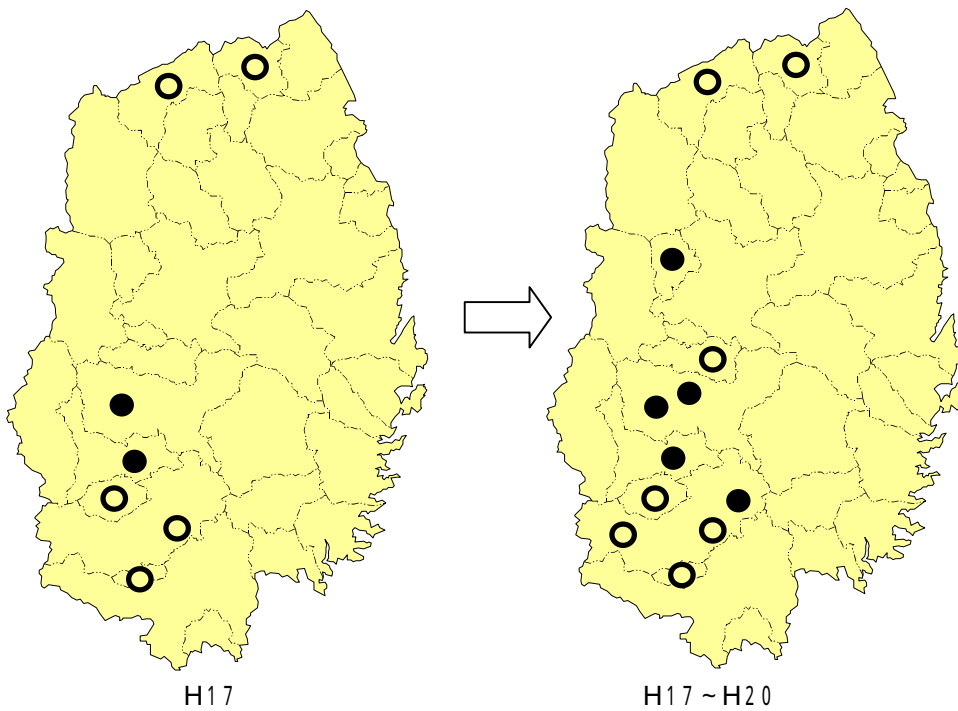


図1 岩手県におけるウコンノメイガの発生地域

○:少発生が認められた地域  
●:中～甚発生が認められた地域

表1 成虫の初侵入の確認日

年	岩手県	富山県
H18	7/18	7/6
H19	7/20*	7/13
H20	7/13	7/8

岩手県:農業研究センターほ場

富山県:農林水産総合技術センターほ場

\*H19年岩手の初侵入日は葉巻初確認日から卵期間5日を減じて推定した

表2 時期別ウコンノメイガ成虫数と葉巻数 (H20)

市町村名	地点名	7月下旬(7/25~29)		8月下旬(8/21)
		成虫数	葉巻数	葉巻数
奥州市	前沢区白山	25	1	148
奥州市	胆沢区徳岡	2	0	3
奥州市	水沢区姉体	6	0	64
北上市	岩崎	0	0	0
北上市	煤孫	0	0	1
北上市	後藤野	2	1	39
紫波町	長岡	12	0	14
滝沢村	篠木	6	0	301
二戸市	石切所	1	0	10
軽米町	尾田	0	0	0
軽米町	高家	0	0	0
北上市	農研センター	36	2	391

成虫数:大豆ほ場畦間40mのたたき出しによる飛び出し数

葉巻数:大豆25本当り

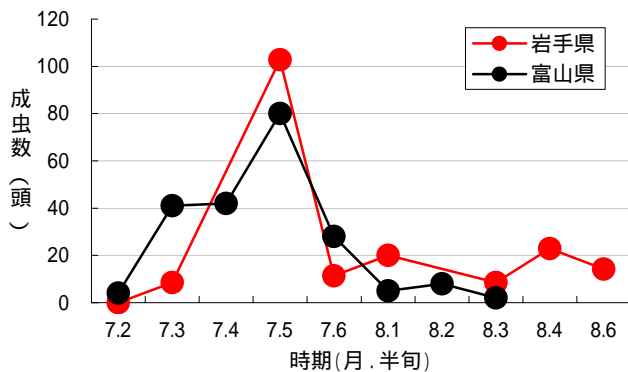


図2 侵入成虫数の推移(H20)

侵入成虫数:たたき出しによる飛び出し数(10a当り)

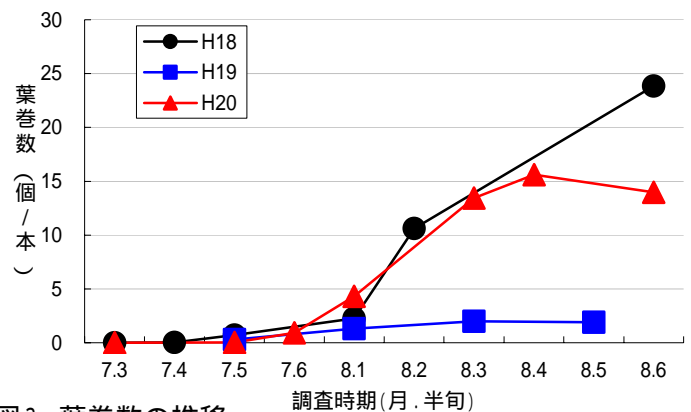


図3 葉巻数の推移

葉巻数:大豆1本当り葉巻数(50本調査)

H18・H19:農業研究センター基準ほ

H20:農業研究センター基準ほ、病理昆虫研究室調査